

(平成 30 年 8 月試験研究業務月報)

試験研究課題：二枚貝養殖の安定化と生産拡大の技術開発

研 究

イワガキ浮遊幼生採取の適期を予測

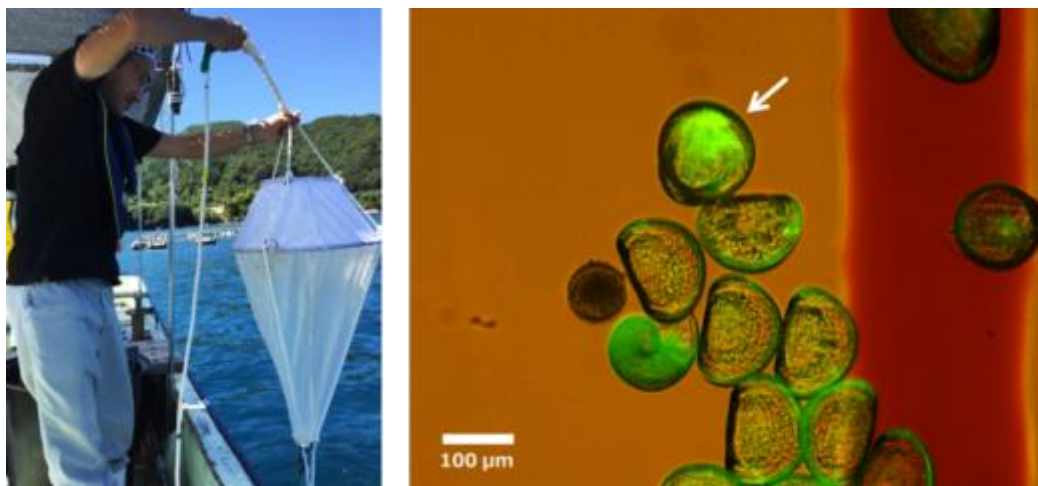
京都府内で養殖される「育成岩がき」の種苗は、ホタテ貝殻を使った装置（採苗器）を海中に垂下し、イワガキ浮遊幼生^{※1}を付着させる方法で採取しています。より効率的に採苗するためには、付着直前の大型幼生（約330 μ m以上）が大量に出現するタイミング^{※2}で採苗器を垂下する必要があります。

そこで、当センターで8月上旬から定期的に採集したサンプルから幼生数や大きさを調査したところ、8月27日に小型幼生（約100 μ m）の大量発生を確認できたことから、採苗適期は約2週間後の9月中旬であると予測しました。

この情報を漁業者に提供し、今年度は効率的な採苗を目指します。

※1 イワガキは、卵から孵化後2週間程度をプランクトンとして海中を浮遊した後、岩盤等に固着（着底）して親貝に成長する。採苗ではこの固着する性質を利用する。

※2 採苗器の垂下後、付着するまでの期間が長くなると他生物の付着や浮泥の沈着により付着稚貝数が少なくなるため、垂下する時期を見極める必要がある。



プランクトンネットによるイワガキ幼生の採集（左図）

蛍光染色したイワガキ浮遊幼生（右図：矢印）